

岡崎ホスピスケアを考える会通信

2003年3月

19号

事務局：橋詰 0564-53-3100 小野 0564-24-8518 URL <http://www.sun-inet.or.jp/~nanba/>

来年度に向けて

1月の会員交流会で相談した会則ができました。その中で私たちが今まで一番大切にしてきた＜目的＞をもう一度読んでください。目的はくいつでも「いい人生だったね」と言えるようにホスピスの語源である「温かいもてなし」で自分自身も含めて互いに支えあいましょう＞というものです。

ディズニーランドのレストランで若夫婦がお子様ランチを頼みました。「申し訳ございませんが8歳以下のお子様にはしかお出しできないことになっています。」ウェイトレスはこう答えましたが、夫婦が悲しそうにしているのを理由をたずねました。「今日はディズニーランドが大好きだった亡くなった娘と一緒に来ました・・・」。厨房に聞きにいったウェイトレスは「喜んでご用意させていただきます」と言いながら、なんと3つのテーブルマットと子供椅子を置き、「どうぞごゆっくりお楽しみください」と言ったそうです。このウェイトレスの「温かいもてなし」は、“夢と希望を与える”というディズニーランドの目的そのものではなかったでしょうか。

私たちも、みんなで育んできたこの会が一番大切にしている「目的」に心を寄せ、それをより深く生きる毎日でありたいですね。今年度はそんなことを語りながらの交流ができれば嬉しいと思っています。(橋詰)

2月の例会報告

テーマ 「告知からの生き方Ⅱ」 2003年2月15日(土) 10時～12時 岡崎市民病院

講師 岡崎市民病院石井正大院長とその患者さん

院長先生は2つの体験談を話されました。

①実父 30年程前にがんが発症し、恩師に手術を頼み助手を務めた。告知はしなかった。

②義母 15年程前にがんが発症。告知をし「入院しない」という本人の望みから「医療よりも介護が大切」という決断をし、子や孫の戦力も結集し在宅での看取りをした。

送られる方も送る方も相手を思いやり、悔いのない看取りをすることが大切だということでした。

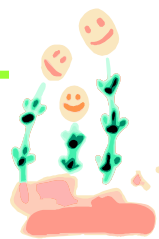
枡田吉生さん(石井先生の患者さん)

6年前にがん発症。胃を全摘出、肝臓・脾臓・膵臓その他の臓器も切除。その後大腸にも転移。

枡田さんは保健体育が専門の高校教師で当時は現役の教頭先生。告知をしっかりと受け止め、術後の体力回復には病院中を歩くことから始め、現在はウォーキング・写真・ハイキング・海外旅行・また家では料理を楽しむ。「元に戻らない部分は今は普通」という考え方で、そこからどうするという生き方を実践。

正に「告知からの生き方」の見本のような方でした。

(柴田)



◆ご案内

勉強会

4月18日(金) 10時～12時 勤労福祉会館 「私のたまたま箱」記入(会員のみ)

5月21日(水) 10時～14時 勤労福祉会館 「臨死体験からみた死後の世界」

「死を受け入れてどう生きるか⑦」馬場俊彦名城大学理工学部教授 大学院人間学教授
お弁当をご用意ください

6月20日(金) 10時～12時 県立愛知病院

「なぜホスピス緩和ケア病棟が必要か」内田達男愛知病院胸部外科部長

手縫いの会(毎月第2火曜日) 県立愛知病院看護相談室

4月8日(火) 10時～12時 5月13日(火) 10時～12時 6月10日(火) 10時～12時

つどい(4月・5月・6月は場所が変則적입니다。会場にご注意ください)

4月16日(水) 10時～12時半 覚照寺 (続けて参加される方は昼食をお持ちください)

13時～14時半 二村エッケルト敬子さんの話「話すということ聴くということ」

5月21日(水) 10時～14時 勤労福祉会館 (例会として全体で行います)

6月19日(木) 10時～12時半 勤労福祉会館和室 木村先生参加(6月から第3木曜日に変更します)



◆ 報 告

手縫いの会報告

愛知病院での手縫いの会、寒い時でも自転車で来てくださる方、バスで来てくださる方、また診察のついでに寄ってくださる方など、10人前後の方たちが毎月集まります。雑巾を縫いながら入れ歯の話、時には手術の話などそれぞれの体験談に耳をかたむけながらの楽しいひとときです。少しの時間、ご協力いただける方はぜひご連絡ください。連絡先：服部 0564-23-1263 米内 0564-53-3290

1月～3月 雑巾＝217枚 自由かぎ袋・直腸かぎ袋・肝臓かぎ袋・ライトハンドル袋＝160枚 乳がん検査用ケーブー2枚 胸部見本カバー・腹部見本カバー＝各1枚 コピー機カバー＝21枚（愛知病院）清拭布＝1,000枚 ひざ掛け＝4枚（国際病院）をお届けしました。友愛の家の手編みの会よりたくさんひざ掛けを作っていただきました。残り毛糸がある方は寄付をしていただけませんか。

“つどい”について

患者・家族・遺族の集まりです

“つどい”に参加される方たちが段々多くなってきました。そんな中で「この会で話をして元気になった」と嬉しい報告をいくつか聞きました。いい話というのは誰でも話しやすく聞くほうも嬉しいものです。でも、元気になる状態の時こそみんなで支えあえるような会を、これからも一緒に作っていきたいと思っています。（曜日・会場が変則的になっています。通信の「ご案内」をご覧ください。）

風のコンサート



3年前男川小学校の子供たちから「手に何度も針を刺しながら縫ったけれど病気で苦しんでいる人のことを思うと痛くありませんでした」という雑巾と手紙に、ボランティアの真髓を教えられ、そのお礼に“命”の話をしました。今年もまた5年生が3月12日愛知病院の中庭で歌をプレゼントし、私たちも応援団として歌わせていただきました。「2年前入院中に励まされたから」と一緒に歌う人、「夫は亡くなったけれど今年も聴きに来た」という人、窓から手を振る患者さん、受け入れてくださった病院、皆がそれぞれのホスピスケアの輪をつくって下さったように思います



運営委員会からの報告

今年のテーマは“連携”です。

5周年記念に集って下さった30名の講師や今までお世話になった方たちが各所で活動しています。この方たちと互いに連携を取れたらいいですね。

1. 会員どうしの交流（たまた箱を書きながら）
2. 終末期を何処（病院 自宅 ホスピス その他）で過ごしたいかのアンケートを取り、自分自身が何にどう関わって生きていきたいかを話し合う。
3. 患者 家族 遺族 医療者 宗教家 ボランティアとして自分にできる“心のケア”を学びあう。

会則ができました。

「岡崎ホスピスケアを考える会」も120名になり、会の目的を皆で確認しあうため、会則を作りました。

こんなことがありました

- * 2月22日光ヶ丘女子高校、23日南山女子高校で愛知県の私立高校生のオープンスクールに参加し臓器移植を考えながら「命って誰のもの？」をテーマに活発な交流をしました。「命は心、誰にも奪われない、だから僕のもの」「命は両親からもらったもの、私一人のものではない」「輝いて生きたいと思っている人に臓器はあげたい」など、真剣なまなざしに感動しました。
- * 2月24日東海地区生協フォーラムでアンケート結果を基にして「終末期を何処で過ごしたいか」を発表し、「私のたまた箱」と私たちの活動を紹介させていただきました。
- * 3月15日保険医協会の西三河総会で話をさせていただきました。このように知り合うことで、一步一步ホスピスケアの連携ができていくのかも知れません。

事務連絡

3月の交流会に参加されなかった方には振込用紙を同封します。
2003年度の会費納入をお願いします。

